

# 平成28年度第1回政策会議

日時 平成28年9月23日（金）10:00～12:00

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 山本教育長 川越企業局長  
種田企画部長 高橋総務部長 入江財務部長

## 1 函館市基本構想（原案）について

◎対応 種田企画部長 本吉企画部次長  
田畑計画推進室長 横川新計画策定担当課長

### ◆ 議題の趣旨 ◆

函館市基本構想（原案）について協議しました。

### ◆ 協議の結果 ◆

一部修正の上、本件の内容は了承されました。

### ◆ おもな発言 ◆

#### ■種田企画部長

函館市基本構想の原案について、5月に第1回基本構想審議会を開催し、7月の第3回審議会では「北のクロスロード HAKODATE」という将来像をお示しし、8月に最終となる4回目の審議会を開催、9月5日、市長へ答申を手交していただいた。

#### ■横川課長

4回の審議会を経て策定した基本構想原案は、「策定の趣旨」、「社会情勢の変化と函館市の現状」、「函館市の課題とまちづくりの考え方」、「函館市の将来像」、「将来像実現に向けた取組の方向性」の全5章で構成している。

「第1章 策定の趣旨」では、昨年10月の人口ビジョンの策定が、人口減少が避けられないという本市の状況を明確にし、「再生・持続」を重視したまちづくりへと転換する契機となったこと、また、北海道新幹線開業が長らく続いてきた地域経済の停滞から脱却する最大の好機であること、という2つの大きな転換期において、市民、企業、団体および行政といったまちづくりのあらゆる主体が、一体となって取り組むべき指針として、新たな基本構想を策定するものと、策定の意義を記載している。

「第2章 社会情勢の変化と函館市の現状」においては、世界の主な動きと日本の動向、目標年次である2026年における推計人口、経済・産業の現状、市民生活の現状等について記載したほか、「第3章 函館市の課題とまちづくりの考え方」においては、「人口減少を見据えた優先的に取り組むべき函館市の課題」、「まちづくりの基本的な考え方」、「土地利用の考え方」の3点について記載している。

「第4章 函館市の将来像」においては、函館に住む全ての人がこのまちに誇り

と愛情をもち、まちの未来のために自らが行動するとともに、国内外から様々な人が集い絆を結び、お互いに力をあわせともに歩むまちでありたいという願いをこめて、将来像を「北のクロスロード HAKODATE ～ともに始める 未来を拓く～」と定めた。

「第5章 将来像実現に向けた取組の方向性」においては、市の取組の方向性を体系図で示しており、「経済再生プロジェクト」と「魅力向上プロジェクト」の2つの重点プロジェクトと5つの基本目標を掲げ、関連する20の施策を位置づけている。

#### ■川越局長

「策定の意義」のところで人口ビジョンの策定が「再生・持続」を重視したまちづくりへ転換する契機となったという位置づけをしているが、人口減少はずっと前から分かっていたことではないか。

#### ■市長

平成23年の市長選において、このままであれば函館の人口は10万人ぐらいになると訴えていた。

#### ■横川課長

今までも人口が減少している感覚はあったと思うが、今回人口ビジョンにおいて明確に数値で示したことにより、市民や、行政に関わる者なども含め、認識を共有したということで大きな転換期と記載した。

また、現計画においても、そうした認識をはっきり打ち出していなかった。

#### ■市長

市長になったときから経済再生と財政再建を進めてきている。行政として、函館市は既に転換期を迎えていたものと認識している。

10年前の総合計画では直接的に「転換期を迎えている」という表現がなかったとしても、今回の総合計画で、「人口ビジョンの策定が「再生・持続」を重視したまちづくりへ転換する契機となった」という表現にはならない。

#### ■川越局長

人口が半分ぐらいに減るということが人口ビジョンにより明らかとなったが、行政としては既に認識していたのだから、「再生・持続」へ転換する契機となったのではなく、その事実をあらためて認識した上で、これからまたまちづくりを進めていかねばならない、という表現になるのではないのか。

#### ■中林副市長

「成長・拡大」は同じ意味の言葉だが、「再生・持続」はそうではなく、並べて表現することに違和感がある。

また、「持続」は現状維持の印象を受ける。「再生・再建」といったような表現になるのではないのか。

#### ■市長

「再生・持続」についても、単に「持続」とすると保守的な表現になってしまう。

私の考える「持続」とは、人口は減っているが、新幹線の開業効果などを一時的なものとしなないという意味で、持続的に発展するまちづくりの施策をやっていくということ。元気だった頃の函館を再生させ、内容はその当時よりも充実させるということであれば、「再生・充実」や「再生・発展」など、もう少し前向きな言葉の方が良い。

■種田部長

ご指摘いただいた部分を一部修正の上、決定とさせていただきます。